



2学期が始まりました！少しずつ体と心を慣らしていこう

昨日から2学期が始まりました。朝の登校時には「お久しぶりです！」と挨拶をしてくれる人もいました。今年の夏は異常に暑く、朝から暑さでしんどそうな人もいました。授業中もついつい突っ伏してしまう姿も見られ、まだまだ「学校ペース」に体がついていけないのかなと感じました。少しずつ体と心を「学校ペース」に慣らしていき、一緒に、元気に2学期を過ごしていきましょう。コロナ感染や熱中症には十分気をつけてくださいね。

でも一方で始業式にも話をしましたが、コロナや異常気象やさまざまなストレスが蔓延している過酷な環境の中で、生きていだけでもすごいこと、生きていだけでも価値があることだとも思います。生きていことに自信を持って…という少しオーバーかもしれませんが、今生きている自分を愛おしみ、今生きている周りの人たちを愛おしみ、自分を卑下することなく(=自分をダメな人間と思うことなく)、毎日を精一杯生きていきましょう。



豊中の気象観測ポイントは蛭池西町！

蛭池西町にある豊中市の気象観測システム「アメダス」(空港敷地内)
※2020年8月21日豊中市の最高気温 39.3℃(豊中市観測史上3位)
※2020年7月の豊中市の降水量 499.5mm(豊中市観測史上1位、7月の平年値 157.4mm)
写真=豊中市のフェイスブックより

暑い夏…クラブでの頑張りを自信に！

暑い夏でしたが、多くのクラブが活動を頑張っていました。多くのクラブではこの夏で3年生が引退。これからは2年生が中心になっていきます。クラブ活動を継続している3年生もいます。私自身、中学校のクラブ活動は3年生の7月から入部(それまでは帰宅部)という変わった経歴があるので、活動を継続している3年生を応援したいです。



始業式の月曜日にはバレー部とバドミントン部の表彰がありました。おめでとうございます！また、午後には体育館で太鼓クラブの演奏会がありました。3年生にとっては最後のステージです。力強さと躍動感あふれる演奏に感動しました！中学生の持つエネルギーってすごいですね。この夏クラブ活動を頑張ったすべてのみなさんに拍手を送ります。

この漫画 ちょっと話題になっています ※見附市役所 facebook7月14日より



この漫画、テレビや新聞で取り上げられ、ちょっと話題になっています。先月、新潟県見附市のフェイスブックに掲載されました。「町」というのを「十八中」に置き換えるとぞっとします。

作者の村上徹さんは「(見附市は感染者0人でしたが)住民には重圧でした。もし感染しても、早く完治してねと励まし合う町であってほしいと絵筆を走らせました。」と語っています(8/24朝日新聞より)

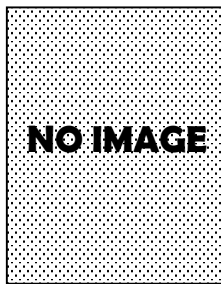
十八中は現在のところ感染者0人ですが、豊中市内の小中学校ではこれまでに数校、生徒児童、教職員の感染者が出ています。漫画にもありますが、コロナウイルスは誰もが感染する可能性があります。万一感染しても、安心して治療に専念し、安心して帰ってこられる、あたたかな十八中でありたいですね！

図書館へ行ってみよう！ 十八中図書館の本紹介！



「万引き家族」 是枝 裕和作

映画「万引き家族」を監督自らが小説化した作品です。祥太の家族は妹、父、母、母の妹、祖母の6人家族。世間や家族から“捨てられた”人たちを“拾い”ながら増えていった家族。この6人には血縁関係がありませんが、大切なものは存在しています。なぜこのような家族が生まれたのか。この家族の存在は悪なのか。現代の社会に鋭く問う作品です。



「本と鍵の季節」 米澤穂信作

堀川次郎と松倉詩門は高校2年の図書委員。次郎は素直で人当たりがよく、詩門は少し皮肉屋で斜に構えるところがあるなど、性格は全然違うけれど案外気が合っているのかもしれない。二人とも洞察力が鋭く、よく一緒に図書委員の仕事に会話しながら、二人に降りかかる難事件を解決していくのです。青春ミステリーともいえるべき一冊です。